

JAきたみらい

おひさま サタダ

2025



vol.268

5



特集

第22回
きたみらい農業協同組合
通常総代会

《端野地区》

馬鈴しょの被覆作業に励む外国人技能実習生
(紹介は2ページです)



玉ねぎの定植が始まる

季節の薫り



当JA管内では4月中旬、各作物の定植作業が進む中、玉ねぎの定植作業もスタートしました。

今年度、約12.4畝の作付けを予定しているきたみらい玉葱振興会会長の加藤英樹さんは22日から定植作業を開始しました。2月の播種後、順調に生育した極早生品種などの苗が手際よく移植機に積み込まれ、次々と圃場に植付けられていきました。

加藤会長は「今年は植付け開始前にたびたび降雨に見舞われ、作業開始が例年より数日遅れたが、2～3月にハウス内で育てた苗は順調に生育したので、これからの生育にも期待したい。昨年のきたみらい玉ねぎの収量は平均反収5.5トと全道平均を上回ることができたので、今年も振興会一丸となって全国に高品質な玉ねぎを安定的に供給できるよう努めたい」と意気込みを語りました。

当JA管内の玉ねぎ作付面積は約4,600畝、収穫量は27.2万トを見込んでおり、定植は5月中旬頃まで続く予定となっています。



▲移植機に苗を積み込む加藤会長
◀植付けられた玉ねぎ

もくじ CONTENTS

特集	第22回	きたみらい農業協同組合 通常総代会	4
○季節の薫り		2	
○表紙紹介		2	
「外国人技能実習生、 今年度も農作業開始」		2	
○JAトピックス		12	
○ほのぼのの広場		14	
・きたみらい青年部 ・わが家のアイドル		14	
○みらいプロジェクトチャンネル		15	
○JAからのお知らせ		16	
○おひさまサラダクッキング		22	
「アスパラとささみの春巻き」 「ジャガイモと クレソンのガレット」		22	

表紙紹介

外国人技能実習生、今年度も農作業開始

すっかり雪が解け春の訪れを感じる4月下旬、当JAの外国人技能実習生11人が農作業を開始しました。

昨年同様、春には玉ねぎやてん菜の補植作業を行い、夏にはサラタマやベコロスの収穫作業などに取り組む予定です。日本語も上達し、組合員やJA職員とのコミュニケーションも積極的に図りながら一生懸命作業しています。

4月24日は訓子府地区で玉ねぎの補植作業、25日には端野地区で馬鈴しょの被覆作業を行いました。天気は良いものの、まだ風が冷たく肌寒さを感じる中、元気に声を掛け合って作業している姿が印象的でした。

今後も実習生たちは組合員圃場や農協施設など様々な場所で作業し、技術習得や語学力向上に励んでいきます。



▲玉ねぎの補植に励む外国人技能実習生



▲議長を務めた森谷裕美さん（温根湯・左）と山内誠さん（北見・右）



▲JA綱領を読み上げる様子



▲議長を務めた森谷裕美さん

移した。7月中旬以降は近年の異常気象の表れである記録的な猛暑が続き、きたみらい地域においても高温の影響で各作物の生育が前倒しとなった。また、大気の状態は不安定な日が続き、一部の地域では降雪によって玉ねぎなどの作物において茎葉の損害被害を受けたが、総じて多くの作物で平年作となった。酪農情勢については、為替や輸送コスト等の影響により飼料・肥料・燃油の高騰が続く中、粗飼料においては好天に恵まれ品質・量ともに平年以上を確保した。このような環境下で組合員の賢明な努力と系統結集のもと、農畜産物の安定供給に努めることができたことは長年に渡る生産基盤の評価と日頃からの営農に対する真剣な取り組みの賜物。その営農努力に敬意を表する」と感謝を述べました。

引き続き、2名の議長（温根湯地区の森谷裕美さんと北見地区の山内誠さん）を選任し、議案審議に入り



▲議長を務めた森谷裕美さん

ました。令和6年度事業報告・剰余金処分案、令和7年度事業計画など7件の議案が審議され、原案通り可決決定しました。

事業報告では、令和6年度の農畜産物販売取扱実績は計画比8・5%増の538億81百万円と報告され、令和7年度の農畜産物販売取扱高は474億78百万円とする事業計画を決定しました。

最後に齊藤和雄専務の閉会挨拶の後、午後1時35分に全日程を終了しました。

総代会終了後には、全国JAグループ一推推薦候補者として第27回参議院通常選挙に臨む東野ひでき氏による演説挨拶が行われました。

総代からの質問・意見

議案第1号

- ・みのり監査法人の監査業務について
- ・今後の金融店舗を含む事務所体制に係るJA経営について
- ・農林中金関係について
- ・当期末剰余金処分案について
- ・玉ねぎ残渣を使ったバイオスティミュラントについて

議案第2号

- ・販売事業計画の単価設定について
- ・所得補償等に係る要望について
- ・職員教育に対する要望について
- ・中央会の業務内容について



▲東野ひでき氏による演説



▲閉会挨拶を述べる齊藤専務



▲開会挨拶を述べる大坪組合長



▲北海道報徳善行賞を受賞した稲辺文男さん（訓子府）

総代会の開催に先立ち、北海道報徳社よりTMR（完全混合飼料）センターの設立や稼働によって地域酪農の発展に尽力した功績を称えて、報徳善行賞を稲辺文男さん（訓子府）、「小豆・いんげん・落花生等の部」で小豆の高収量及び上位品質が評価さ

当JAでは4月8日、北見市のホテル黒部で第22回通常総代会を開催し、総代371人（本人207人、代理3人、書面議決161人）が出席しました。提出した7議案全てが可決され採択となりました。



▲農林水産大臣賞を受賞した中村裕一さん（訓子府）

れ農林水産大臣賞を中村裕一さん（訓子府）が受賞し、大坪広則組合長より賞状や記念品が手渡されました。

総代会開会にあたり大坪組合長は「昨年は第31回JA北海道大会の開催や四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法の改正など、北海道の農業

にとって大きな転換期を迎えた年になった。そんな中、当JAの販売額は過去最高額だったが、コストの上昇もあり生産者の所得に反映されていないのが現状。経営所得安定対策の見直しを含め、生産現場の現状について系統組織をあげて発信することが今後重要になる。食料・農業・農村の分野においても持続可能な開発目標、SDGs、グローバル化の進展で国内経済も新たな時代のステージを迎え、食に対する考え方が大きく変化している。このことをチャンスと捉え、新たな成長に繋げるためにも食料安全保障の重要性を生産者としてしっかりと受け止め、第6次地域農業振興方策と中期経営計画達成に向けて、環境の変化に柔軟に対応できるJA事業運営の確立を目指したい」と述べました。

また、令和6年産を振り返り、「融雪も順調に進み、各作物の植付け作業は平年より早く開始した。その後は少雨早魃傾向で経過したもの晴天の日が多く、日照時間も確保されたことから各作物の生育は順調に推

日本の食を守り 地域と共に生きる 農業の発展を目指して

常務理事

高橋 優



この度、第22回通常総代会において改めて理事として再任いただき、続く理事会において販売・購買・東京事務所担当常務理事に就任しました。

今まで組合員各位のご理解とご協力のもと、その任にあたる事が出来ましたことに心より感謝申し上げますとともに、これからの再任期間もその責務を果たし、組合員の皆様の負託に応えられるよう努力する所存であります。

今日、日本が国際社会の荒波の中で航海しているように感じています。関税交渉、為替相場の変動と濃霧の中、とても舵取りの難しい時代ではありますが食料安全保障は国民誰もが望む日本全体の課題であり、人の命に直結する重要な事項であるため決して妥協すること無く業務遂行してまいりたいと思います。

また、食は日本の文化であります。時代の変化にマッチした適正価格を確保し、生産された農畜産物が届くことを待ち望んでくれる全国の皆さんへ供給する義務を果たすことが第一義であると考え、地域経済に直結する重要な役割を担う基幹産業として農業振興に努めてまいります。

農業が持続的に発展する上で、JAの経済事業の果たす役割の大きさを再認識し、販売事業においては物流・保管を含めて供給責任を果たし、その上で更に国内外のマーケットを視野に入れつつ、多様なニーズに対応できる産地として認知される様、柔軟かつ攻めの販売を実践してまいります。

また、購買事業においては資材高騰が続いていますが、より一層の安定供給と廉価追求、有益な情報、サービスの提供を重点課題と位置づけ、選んでいただける事業執行に全力で取り組んで参る所存であります。

組合員各位が安心して農生産に傾注出来る様、JAとしての役割、役員としての重責を改めて自覚し、組合員の皆様の更なる結集を事業推進の力に変え実践に努めて参りますのでよろしくお願い申し上げます。

この地域の農業はこの地域に住み、この大地を活用しなければ出来ません。農業を含めた地域全体が人口減少・労働力不足といった課題はありますが食に直結する生産活動を通じて地域全体が魅力的となり共に発展することと、今年も組合員そしてご家族の皆様がご健勝で、豊穡の出来秋を迎えられます様ご祈念申し上げ、就任のご挨拶にかえさせていただきます。

組合員と共に 持続的な農業発展を目指して

常務理事

宮下 尚樹



第22回通常総代会において改めて理事として選任され、臨時理事会において再び営農担当常務理事に就任し、責任の重さを痛感しております。

営農担当常務として3年間務められたことも、組合員皆様方のご理解とご協力の賜物であり、心から感謝を申し上げます。また、新たな気持ちで組合員のために、組合員と共に常務としての職務を全うする所存でありますので、引き続き組合員皆様のご指導・ご理解・ご協力を宜しくお願いいたします。

現在、農業・農協を取り巻く環境は、国際紛争や円安の影響により、燃料・飼料・肥料などの資材高騰が続いており、農業経営に大きな影響を及ぼしています。また、トランプ米政権での関税措置を巡る日米交渉で、アメリカから日本への農畜産物の関税・規制緩和など先行き不透明で心配するところです。そのような中、国内では食料・農業・農村基本法が昨年改正され、現状に即した基本理念の見直しと「食料安全保障の強化」「環境と調和のとれた産業への転換」等の実現が盛り込まれ、生産基盤の強化や食料自給率の向上を通じて食料安全保障を確保し、大胆な政策転換を行うとしており、国では初動5年間を農業構造転換集中対策期間と位置付け、施策を集中的に実行するとともに引き続き検討を進めているところですが、農家・農協が今後どの様に進んで行かなければならないのか注視するところです。

このような情勢変化の激しい環境の中、今後とも出向く事業体制を基本姿勢とし、組合員との対話を重視しながら、「組合員とともに、組合員による、組合員のため」を原点として地域農業の持続的な発展を目指し、農協事業運営に役職員一丸となって努力してまいります。組合員皆様には今後ともご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

最後に組合員皆様のご健康と農作業事故に留意され、令和7年が災害もなく良い天候に恵まれ、豊穡の出来秋を皆様と一緒に喜び合える一年になることをご祈念申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

組合員の 営農と生活を守り高める

代表理事専務

齊藤 和雄



この度の第22回通常総代会において理事として選任され、その後の臨時理事会において再び代表理事専務を拝命致しました。その職責の重大さに身の引き締まる思いではありますが、「組合員の営農と生活を守り高める」の協同組合の理念のもと、組合員の皆様やきたみらい農協の更なる発展を目指すべく、今までの経験を活かし、専心努力する所存でありますので、今後一層のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

日頃より組合員の皆様におかれましては、農協事業に対して深いご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。昨年度の農畜産物の取扱高が過去最高の約538億円の取扱いとなったことにつきましては、普段の皆様の営農努力と系統出荷の賜物であり、重ねてお礼申し上げます。

さて、昨年度の総代会において第6次地域農業振興方策並びに中期経営計画をご承認頂いたところです。合併20年を経過し、組合員戸数が約半数となることをふまえ、きたみらい農協の今後の事業運営の方向性を示したものです。その中で地区事務所再編は組合員皆様の負担の軽減と職員の効率的な作業により、これから我々の想像のつかない人口減少による労働力不足に少しずつではありますが対応して参る所存です。進めるにあたり、農協と組合員皆様の心の距離は離れないよう取り組んでまいりますので、皆様のご理解もお願いいたします。

また、農業を取り巻く環境は長引く円安や国際紛争による資材の上昇などに加え、新たな貿易戦争により日本農業の先行きが不透明な状況となっており、一方では経済活動やインバウンド需要等の回復により、農畜産物の消費は増加傾向にあります。農業従事者が減少する中、北海道農業は日本の食料供給基地としての役割と責任が益々大きくなっています。安全、安心で良質な農畜産物を安定的に生産、供給すると共に、農業と関わる幅広い関連産業と結びつきながら、地域経済の発展や雇用の確保に重要な役割を果たしていかなければなりません。先代が築き上げた礎を大切にしながら、次の世代の方々が誇りを持って農業に取り組まれるよう、様々な課題に柔軟に対応し実践してまいりますので、今後より一層のお力添えをよろしくお願いいたします。

最後になりますが、組合員ご家族の皆様のご健勝と、農作業事故にはくれぐれも注意されまして、本年も皆様方と一緒に豊穡の秋を迎えられますことを心からご祈念申し上げ就任の挨拶とさせていただきます。

地域住民との 信頼関係を 構築し、選ばれるJAを目指す

代表理事組合長

大坪 広則



組合員の皆様におかれましては、春耕期を迎え忙しい毎日のことと存じます。

この度の第22回通常総代会で理事役員として承認をいただき、その後の臨時理事会において新たな常勤体制が決定され、不肖私が引き続き代表理事組合長の重責を担うこととなり、責任の重さを痛感している所であります。今まで諸先輩をはじめ、組合員のご指導を頂いた経験を生かし、「組合員の営農と生活を守る」を念頭に農協事業に取り組んで行く所存でございますので、これからも今まで以上のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

昨今の農業を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の位置付けも5類に移行され2年が経過して人の動きも活発化する中、インバウンドも急激に回復しているところであります。日本経済は円安の影響もあり、燃料、飼料、肥料等の生産資材高騰が続く生産者の努力が農業所得に繋がらないのが現状であります。

この様な中、政府は「食料安全保障の強化」の下、食料・農業・農村基本計画を打ち出し、初動5年間を「農業構造転換集中対策期間」と位置付け、集中的に施策を実施すると言われております。生産現場にとって、営農継続が可能な将来を見通せる環境にするためにも大幅な予算確保を要請し、次の世代が意欲と希望の持てる環境に成る事がこれから求められると感じるところであります。

今後も懇談会等で頂いた意見を事業運営に反映し、将来を見据えながら生産現場の課題を的確に捉え、消費者との連携と地域農業の振興に努め、出向く体制の更なる強化を図りながら、第6次の「地域農業振興方策」と「中期経営計画」達成に向け、「組合員とともに」「組合員による」「組合員のため」を基本に、「『集え一つに』食とみどりで繋がる『みらい』のために」をスローガンに、地域住民との信頼関係を構築しながら、選ばれるJAを目指してまいります。

国内経済も新たな時代のステージを迎え、食に対する考え方が大きく変化しているのが現状であります。新たな成長に繋げるためにもこの環境の変化に柔軟に対応できるJA事業運営の確立を目指し、役職員一丸となり取り組んでまいりますので、更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に組合員皆様のご健勝で活躍されますことと安心して営農に専念できる環境、何よりも農作業事故の無い中で皆様と喜び合える素晴らしい年産になることをご祈念ご期待申し上げます。就任にあたってのご挨拶といたします。

退任のご挨拶

農業協同組合の 理念は いつの時代も不変

前・会長理事

西川 孝 範

この度、任期満了により会長理事を退任いたしました。振り返りますと、平成15年2月のJAきたみらい発足当初から理事としてJA運営に携わり、平成20年6月からは組合長として12年間、その後は会長として約5年間、組合員・役職員の皆様の深いご理解とご協力に支えられ、任務を終えることができました。心より感謝と御礼を申し上げます。

また、令和2年6月からの3年間は、JA北海道厚生連・JA共済連北海道の副会長に就任し、「地域医療」の充実と「ひと・いえ・くるま」の総合保障を通じて、地域社会と組合員の営農・生活に貢献できるよう、各方面より様々なご意見をいただきながら取り組んでまいりました。就任した当時は新型コロナウイルスがまん延し、旭川厚生病院で大規模なクラスターが発生するなど、医療現場は急速に経営状況が悪化しました。そのような中、医療現場を支える医療関係者の熱意と、地域住民からの温かい応援や関係各位の深いご理解もあり、今日まで地域医療を継続することができたものと、改めて感謝を申し上げる次第です。

思い起こせば、世界や日本の経済の動きをつかむことの難しさを痛感する日々でした。昨今の国際紛争や急激な円安の影響により、海外からの食料・資源の安定的な調達は極めて困難となりました。折しも、「令和の米騒動」と言われるような情勢の中で、JAがいかに食料の安定供給を担っていくのか、常に考えさせられます。私たちの使命は、地域の農業を支え、国民に安心して食べていただける農畜産物を提供することです。そのためには、国内生産の確保が不可欠であり、一方では、正しい情報を国民に伝え、生産者と消費者の相互理解を深めていくことが益々重要となります。

農業協同組合の理念はいつの時代も不変です。「集えひとつに!」を合言葉に、地域・農業の未来を見据えた取り組みを進めていただきたいと思います。私たちの活動が、地域社会の発展に寄与し、次代に向けて持続可能な農業を実現するための礎となることを願ってやみません。

結びにあたり、これまでのご支援とご協力に心から感謝申し上げますとともに、組合員・役職員皆様方のご健勝と、本年が事故・災害もなく豊稔の出来秋を迎えられるようご祈念申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。



常勤監事 就任にあたって

常勤監事

鹿野 信 男

この度の第22回通常総代会におきまして監事に再任され、その後の監事会におきまして常勤監事の選任を受け、就任いたしました。

監事会も、南代表監事から土山代表監事となり新たな体制で、そして大坪組合長での新執行部体制のもと、土山代表監事、大邑監事、平田監事、北村監事と協力し合いながら、微力ではございますが監事の任務を精一杯果たしていく所存であります。

会計士監査が義務付けられてから令和7年度で7回目を迎えることとなります。ご承知の通り、会計監査人は計算書類等、すなわち貸借対照表、損益計算書及び注記表並びにその付属明細表について監査を行うのに対し、監事は会計以外の事業報告が正しいか、業務が法令や定款に違反することがなく行われているのか監査し、その監査報告書を作成することが主な職務となります。

外部のチェック機関である会計監査人監査と理事の職務執行の監督を主たる職務とする監事監査の間には、独立した第三者かそうでないかという違いがありますが、それぞれが担う監査の実効性を確保し、両者とも適正な財務報告や業務執行を担保するうえで不可欠な存在であり、両者の連携はますます重要性を増していくものと思われれます。

また、監事の職務は『理事の職務執行の監査』も当然重要な役割ですが、『農業協同組合』として、JAが組合員との関わりをどのように深めているか、組合員のJAへの結集にどのように取り組んでいるか、また、地域との関わりの中で必要とされる組織としてのどのような活動を展開しているかなど、協同組合組織の基本的な部分にも着目し、JA組織に特有の価値をどのように追及しているのかという点についても、監事という立場から検証し、実現できるよう後押ししていくことも重要であると考えております。

最後になりますが、本年も豊稔の秋を迎えられることと、組合員及びそのご家族、役職員の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。3年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。



魅力ある 農業のために

代表監事

土山 清 隆

この度、第22回通常総代会におきまして監事に再任され、続く監事会において代表監事の選任を受け、就任いたしました。

これまでの3年間、組合員皆さまのご理解のもと、監事としての役割を務めることができましたことに感謝申し上げます。

今後は代表監事としてあらためて、その職務の重大さに身が引き締まる思いではありますが、監事としての使命を再認識し、役割を務めて参る所存でございます。

また、任期満了により退任されました南前代表監事におかれましては、監事体制の変更があった中、新たな監事監査体制の構築に取組み頂いたことなど、長い間多大なるご尽力を頂きました事に感謝申し上げます。

さて、農業や農協を取り巻く環境は大変厳しく、農業経営に大きな影響を及ぼしています。高齢化や生産年齢人口の減少により、様々な分野での労働力不足が深刻な課題となっております。このような社会情勢ではありますが、監事としての行動指針を絶えず認識し、経営理念に基づいた姿勢を貫き自らの使命を果たしてまいります。

JAきたみらいが「組合員の営農と生活を守る」ということを念頭に置き、JAへの結集力で直面する課題について一丸となり乗り切り、若い世代が希望をもって就農できる「魅力ある農業のため」の環境構築や、地域とのかかわりの中で必要とされる組織としての活動と農協事業運営の更なる発展について微力ながら貢献して参る所存でありますので、組合員皆さまのご協力をお願い申し上げます。

結びにあたり、組合員及びそのご家族、並びに役職員皆さまのご健勝と、本年が豊稔の出来秋を迎えられます様にご祈念申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。



将来の地域農業と 農協事業運営を担う次世代のために

常務理事

長瀬 二三男

この度、第22回通常総代会において、理事として選任を賜り、臨時理事会にて信用担当常務理事に就任いたしました。

これまで、職員として組合員の皆様にご指導賜りましたことに深く感謝と御礼を申し上げますとともに、これからは常勤役員の一人として、微力ではありますが組合員の皆様の負託に応えていけるよう、任期期間中は精一杯努力して参る所存でありますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

信用・共済事業を取り巻く環境は、少子高齢化に伴う地域人口の減少等から事業基盤が年々縮小するなか、信用事業では「金利のある世界」への転換と「貯蓄から投資へ」の潮流変化やキャッシュレス化の進展による他行競合激化、共済事業でもネット保険や損保会社との競争が激化するなど大変厳しい経営環境にあります。

JAの健全性確保と地域のインフラとして貢献できる信用・共済事業の実現に向け、利用者の皆様から信頼され、選ばれ続けるパートナーとして農業と暮らしをサポートしていくことを目指してまいります。

また、令和6年度からスタートしました第6次地域農業振興方策・中期経営計画の着実な実践に向けては、地区事務所再編など大きな課題と転換期を迎えているなかで、組合員の皆様との対話を通じて、将来の地域農業と農協事業運営を担う次世代のために「今、やるべきこと」をしっかりと考えながら職務にあたってまいりますので、今後とも組合員の皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が組合員の皆様にとってご健勝で、豊稔の出来秋を迎えられますようご祈念申し上げ、就任のご挨拶といたします。



新体制がスタート 3年間、一致団結し勇往邁進

4月8日の第22回通常総代会において、新しい役員が選任されたことに伴い、同日の監事会及び臨時理事会において向こう3年間の新執行体制が決定されましたのでお知らせします。

監 事		理 事			
	代表監事 土山 清隆 (端野)		常務理事 高橋 優 (学経)		常務理事 宮下 尚樹 (北見)
	常勤監事 鹿野 信男 (学経)		理事(東地域運営委員長) 寺崎 博 (端野)		理事(営農専門委員長) 小野 洋一 (訓子府)
	監事 大邑 和治 (温根湯)		理事 堺 信幸 (置戸)		理事 小野 俊浩 (北見)
	監事 平田 康弘 (新)(訓子府)		理事 岩村 豊 (新)(置戸)		理事 穴田 惣一 (上常呂)
	監事 北村 好孝 (学経)		理事 本條 康浩 (新)(温根湯)		理事 小坂 浩司 (新)(訓子府)
			理事 山 馨 (新)(端野)		理事 北川 裕一 (新)(端野)

	参与 桜井 恵里子 (端野)		参与 大丸 裕之 (上常呂)		参与 島貫 昌代 (訓子府)		参与 清井 裕貴 (訓子府)		参与 今部 直恒 (留辺蘂)
---	----------------------	---	----------------------	---	----------------------	--	----------------------	---	----------------------

令和7年度
参与紹介

公正不偏の 立場から鋭意努力

前・代表監事

南 博 敏

この度、4月8日の第22回JAきたみらい通常総代会をもちまして代表監事を退任いたしました。顧みますと、平成25年監事として4期12年の長きに亘り務めさせていただき、この間組合員の皆様、役職員の皆様、各関係機関の方々の多大なるご支援とご厚情を賜りましたことに心より感謝とお礼を申し上げます。組合員の農業経営の安定と生活の向上を支援する農業協同組合の精神、目的とその達成のために理事者との意思疎通を図り独立し、かつ公正不偏の立場から監査業務を通じて微力ながら農協事業運営発展のために努力させていただきました。さらには、元菅崎常勤監事、元宇野常勤監事、現鹿野常勤監事を始め、各監事諸兄の方々、監査室職員の力添えの賜物と心から改めて敬意を表するものであります。

きたみらい農協として合併をして20余年、この間色々な変遷を乗り越え現在に至ります。先人達の言葉では表すことの出来ない努力と苦労、さらには将来を見据えた発想と実行力が現在の農協の礎として築き上げているものと確信します。この地域には無くてはならない農協として、この農協を必要とする全ての人々の幸せのためにも大地に根差した農協事業運営を願います。

今後、ますます激化するであろう農業界においても、一番の理解者である消費者とのコミュニケーションを大切に、より一層の充実を図り、大きくうごめく世界情勢にも注視し、新役員体制のもと農業協同組合の原点に立ち返り、組合員の期待と信頼に応え、この厳しい時代を乗り切っていただけるものと確信いたします。

最後に、きたみらい農協のますますの発展と組合員の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。大変お世話になり、ありがとうございました。農の力は無限で有り、偉大です！



環境変化に 負けない 農業経営を目指して

前・常務理事

越 田 喜 裕

早春の候、組合員・ご家族の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度4月8日の第22回通常総代会をもちまして、任期満了によりきたみらい農業協同組合の常務理事を退任いたしました。

顧みますと、昭和58年に旧上常呂農業協同組合に入組以来、平成15年2月の合併により現きたみらい農業協同組合の職員として、さらには平成31年から常務理事として、微力ではありましたがきたみらい地域の農業振興、地域発展に携わることができました。

この間、組合員の皆様の暖かいご支援とご協力に支えられ、今日まで務めることができましたこと、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

組合員並びにご家族の皆様方におかれましては、国際紛争や急激な円安の影響により、燃料・飼料・肥料などの生産資材の高騰が続き、農業経営を維持し発展させることが厳しい局面も予想されますが、反面、この厳しい期間を乗り越えることで経営の革新を図る好機でもあると思います。これからも益々、経営の向上と安定化を図りながら、農協とともに農業の発展、地域の活性化に貢献し続ける事をご祈念申し上げます。

あわせて第6次中期経営計画で掲げたスローガン『集え一つに!!食とみどりで繋がる「みらい」のために』を合言葉に更なる結集を願うところです。

これからは一地域住民の立場で、今までの恩返しができればと思っています。

末筆ながら、これまでのご厚情に感謝申し上げます。皆様方のご健勝とご多幸をお祈りし退任のご挨拶といたします。





J A トピックス

ほうれん草植付、収穫

～生育、品質ともに良好～

きたみらい管内では、2月中旬からほうれん草の播種が行われ、4月上旬から収穫が始まりました。ほうれん草は、春の生育期間は約45日、夏は約30日と時期によって差があり、気候に合わせた管理を行いながら、4月中旬から11月中旬にかけて半年間にわたり出荷を行います。

上常呂地区の上野達夫さんはハウス約500坪で年間を通してほ

うれん草を栽培し、4月10日から収穫を始めました。

上野さんは「ほうれん草はツナと麺つゆで和えて食べるのがおすす。今年のほうれん草をたくさん食べてほしい」と話してくれました。

当JA管内のほうれん草作付け予定面積は約1・6畧となっており、生産量は20・7トを見込んでいます。



▲順調に生育しているほうれん草



▲大きく成長したほうれん草

春の整地や防除ノズルなどを学ぶ

～JAきたみらい青年部西支部～

JAきたみらい青年部西支部は4月9日、留辺蘂地区事務所で学習会を行い、部員27人が参加しました。

学習会の前半は三菱マヒンドラ農機(株)輸入農機担当課の前田篤志課長より、春の整地に用いる機械や欠株を知らせるシードセンサーについて、後半では(株)高橋農機の高橋晃平専務取締役より、スプリヤーのノズルやナノバブルを発生

させるノズル、同社の扱う機械などの説明を受けました。

学習会に参加した山崎達昭支部長は「ノズルや機械の種類、特性について知ることができ、講師の方々と交流が出来てとてもよい学習会だった。学習したことを春からの営農に活かし、作業を頑張りたい」と話しました。

その後は講師の2人を招いて懇親会が行われ、交流や意見交換を行いました。



▲前田氏の説明を受ける様子



▲高橋氏の説明を受ける様子

きたみらいスマート農業推進協議会 総会を開催

～事業拡大に向けた計画を承認～

当JAのきたみらいスマート農業推進協議会では4月4日、センター地区事務所第7回通常総会を開催し、委任を含む12人の代議員が参加しました。

同協議会ではペーパーレスの取り組みを進めており、参加者はJAのタブレットを使って資料の確認を行いました。

開会にあたり水留亮会長は「令和6年にスマート農業技術活用促進法が制定され、スマート農業の重要性は年々高まっている中で、協議会の果たすべき役割も一層重要になっていると感じる。これから

らは更に活動の幅を広げ、内容の充実化を図りたいと考えているので、貴重なご意見をお願いしたい」と挨拶しました。新年度の計画としてスマート農業サービス展示会やロボットトラクタ実演会などを掲げたほか、周年事業や事業内容の拡大を見据えた会費の値上げについて提案し、承認されました。

総会では協議会会員を増やすための方法や会費の有効活用についてなど、協議会の活性化にむけた質問や意見が挙がりました。



▲議長を務める温根湯地区の森谷詩音さん



▲ペーパーレス開催の総会の様子

豊作を願って、てん菜植付け作業開始

きたみらい管内では、てん菜の植付け作業が4月下旬から始まりました。今年は春先の冷え込みや悪天候により地域ごとに差はあったものの、全体的にやや遅れて作業が始まりました。

訓子府地区で玉ねぎ、てん菜、春小麦、にんじんを約33畧栽培する西田隼人さんは今年、てん菜の作付けを約6・3畧予定しており、

4月28日から作業を始めました。

西田さんは今年度の営農に向けて「前年は好天に恵まれたこともあり比較的年収が多い年だった。今年は前年以上の収量と高糖分を目指して作業に邁進したい」と意気込みを語ってくれました。

今年度、きたみらい管内全体では約2,740畧の作付け、取扱量は約16・2万トを計画しています。



▲播種作業を行う様子



▲肥料の積み込み作業の様子

みらいプロジェクトチャンネル

イギリスのリジェネラティブ農業から分かる農業の実態について① **vol.46**

北海道大学大学院農学研究院 小林 国之

昨年8月～9月に行ったイギリスでのリジェネラティブ農業に関する調査からいくつかの農場の実態について数回にわけて紹介したい。昨年のアメリカに続き、リジェネラティブ農業に取り組んでいる農業者を訪問した。イギリスでもリジェネラティブ農業は関心を集めている。リジェネラティブ農業が関心を持つ農業者によって進められているという点については共通だが、アメリカと異なる点は、政策的にもそれを後押しするような政策があることだ。現在、イギリスの農業政策のキーワードは“Public money for public goods”。その考え方の中で、農業政策における環境への支援が手厚くなされている。

訪問先はリジェネラティブ農業に取り組んでいる農業者で組織されたGreen Farm Collectiveというところを入り口としていくつかの農場や資材会社を紹介してもらって訪問した。今回はそのリーダー的農業者であるM氏の農場を紹介しよう。農場は970haで、小麦、大麦、オーツ麦、エンドウ豆、キヌアなどの作物と羊を飼養している。M氏は非農家出身でいわゆる農場マネージャーである。通年雇用の従業員1名とパートが1名。いくつかの農場で経験を積んで、今の農場の経営者となったのが10年前で200haから始まった。当初は慣行農業をおこなっていたが、使える農業の種類などが制限されたり、また農場の規模が大きくなるに従って、より効率的なやり方を考えなければならない。いかに農業を使わず、作業効率を高める農業を模索するなかでリジェネラティブ農業の取り組みを始めた。理念よりも経営の現実が彼の動機となっている。

カバークロップについては、主に小麦の後作として複数のミックスを使い分けている。一部越冬させ、一部羊を放牧している。殺菌剤はほとんど使用せず、殺虫剤は非使用。除草剤は「必要悪」として本当は使いたくないが、可能な限り少なく使っている。化学合成肥料としてのカリ、リンは投入していない。葉面散布やコンポストティーも活用している。M氏曰く、小さな様々な技術をパズルのピースのように組み合わせていくのがこの農業の難しいところでもあり、やり甲斐でもあると。

成果は確実に現れているという。土壌有機物は6年間で2.5%から3.25%に増加した。使用する平均の化学肥料も基準である250kgN/haにたいして160kgまで削減している。「空気中の無料の窒素をいかに取り込むのか」。そのためにはカバークロップとともに土壌の活性化も欠かせない。「植物が獲得する養分の85～90%は微生物を介している。微生物を活性化すれば微生物が植物の世話をしてくれる」。ギ酸フミン酸、窒素固定菌などで微生物の活性化を図っている。投入を削減しつつ、収量も確保し、かつ品質も上がっていることを実感している。嬉しい「ボーナス」もあるという。イギリス農村のアイコンのひとつであるメンフクロウが農場内に住み着いたそうだ。

こうして様々な技術、資材も組み合わせながらやっている彼をそうさせる一番の根源は何か。



訪問の最後に「なぜ、この農業のやり方を？」と問いかけると彼は「40年後娘達に「父さん達が地球を壊したんだね」と言われるより「守ろうとしたんだね」と言われる方が良い」と応えてくれた。彼には同じくGreen Farm Collectiveを立ち上げたメンターがいる。こうした出会いと、大規模経営を成り立たせるための経営判断。その根幹としての現在の農業者としての次世代への責任。これら全てが混ざり合って、この農場のリジェネラティブ農業の取り組みを動かしているのである。

ほのぼの
広場

きたみらい
青年部



臨機応変に
焦らず営農

置戸地区・豊住

東海林 亮太さん(27歳)

●就農したきっかけ

子どもの頃から草取りや収穫の手伝いをしていの中で、農作業にやりがいを感じていました。また、4人きょうだいの末っ子ですが、誰も実家を継ぐ意志がなかったため、小学生の頃から家業を継ごうかと考えていました。

●営農について

玉ねぎを中心に、小麦や大豆、てん菜、スイートコーンを合わせて約35畝作付けしています。毎年決まった流れでなく、天候など状況に応じて臨機応変に営農するようにしており、どんなときも落ち着いて作業することを心がけています。

●休日の過ごし方について

時間があるときはゲームをすることが多く、最近ではモンスターハンターワールドにハマっています。たまにドライブしながら、きたみらい管外の農業の様子を見て回ることもあります。

●青年部活動について

活動や懇親の席などで色々な人と交流し、営農のノウハウを得られるのが魅力だと思います。特に経営移譲をしてからはとても有意義に感じており、若い部員さんともぜひ積極的に参加してもらえればと思います。

今回は青年部南支部理事の東海林亮太さんに登場いただきました。

わが家のアイドル

好奇心旺盛で元気いっぱいななかよし兄妹



置戸地区・雄勝

橋本

なぎさ
渚くん
(3歳)
つばさ
翼ちゃん
(1歳)

気温も暖かくなってきた4月下旬、渚くん、翼ちゃん兄妹取材しました。取材中は2人とも、元気に部屋の中を動き回って遊んでいました。渚くんは何事にも関心を寄せる好奇心旺盛な男の子。最近ではアニメのパウ・パトロールが好きで、好きなキャラはケントだそうです。翼ちゃんも好奇心旺盛な性格で、普段はよくお兄ちゃんについて歩いているそうです。

未来さんに2人のかわいいところを尋ねると、渚くんは「すき」と好意を伝えてくれたり、翼ちゃんと仲良くしてくれるところで、翼ちゃんは他の赤ちゃんをなでたりチューしたりして、1歳にして母性を感じるところと答えてくれました。

渚くんの名前には「穏やかで物事に柔軟に対応できる子になってほしい」、翼ちゃんの名前には「才能や能力がどんどん伸びてほしい」という願いが込められています。

そんな2人にご両親は「自立し、周りに流されず、自分で決断できるように育てほしい」と話してくれました。

元気に取材に応じてくれた2人の成長が楽しみです！

渚くん・翼ちゃんは橋本光さん・未来さん夫妻のお子さんです。

～JAきたみらい東京事務所通信～

Vol.4

「きたみらい農畜産物応援団の拡大マッチング」店舗のご紹介

private restaurant 0760 埼玉県さいたま市大宮区宮町 2-108-3

（株）大宮中央青果市場からご紹介頂いた店舗で当JA産の玉ねぎと赤玉ねぎを使用頂いています。店舗のコンセプトは「ラグジュアリーな大人の隠れ家」であり、オシャレな空間になっています。鉄板焼き、しゃぶしゃぶ、創作料理など幅広い料理を提供しています。

きたみらい赤玉葱振興会役員が来訪された際には、赤玉ねぎを使用した料理も提供頂きました。



▶店舗HP <https://www.0760.tpd-jo.co.jp>

※「きたみらい農畜産物応援団の拡大マッチング」の取り組みに関する目的等や過去の掲載店舗につきましては、きたみらいホームページ内の東京事務所通信をご覧ください。また、産地指定頂いた店舗について、お近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さい。

新採用職員2名が

農作業に奮闘!!

当JAの令和7年度新採用職員2名が4月21日から5月2日に毎年恒例の農家実習を行いました。この実習は、農作業を体験することでJA職員としての意識を高め今後の業務に活かすことを目的にしており、今年度は玉ねぎの苗運びや補植、メロンの苗の管理などを行いました。今回の経験から多くのことを吸収し、今後の業務に励みます。



▲玉ねぎの苗を運ぶ
澁谷蒼職員（販売企画部企画開発グループ）

▲メロンの苗についての説明を聞く川路衣麻職員（金融共済部訓子府支店）

農業用廃プラ回収のご案内

本年の廃プラ回収につきまして、次の日程で行います。受入日時・場所や排出区分など確認の上、持ち込み願います。

なお、未洗浄農薬空容器は再生処理ができないため、**洗浄済みのものと比べ約10倍の処理費用が掛かります。**空容器、空袋は洗浄して排出をお勧めします。

- 受入区分
・農ビ類 ・農ポリ類 ・未洗浄農薬空容器
- 受入時間
・午前 9:00～12:00 ・午後 13:00～15:30

日 程	受 入 場 所
6月4日（水）	西相内小麦乾燥調製貯蔵施設
6月5日（木）	
6月11日（水）	
6月12日（木）	

※当日の混雑状況はJAコネクトを通じて都度、皆さんに配信します。混雑を避けるため、状況をご確認のうえ搬入を行っていただきます様、ご理解ご協力をお願いいたします。

※**注意事項**
●**農耕用廃タイヤ、ビニールホースの回収は秋に行います。**

信用事業の優績JAとして表彰!!

当JAは「令和6年度北海道信用事業優績JA」において総合表彰を受賞しました。

表彰には5つある重点推進項目の部門ごとの表彰と、それらを総合した総合表彰があります。当JAは令和3年度から4年連続の総合表彰となり、4月15日、北海道信連の北村常務理事より当JAの大坪組合長へ表彰状と副賞が手渡されました。



▲北村常務理事（右）より表彰状を受け取った大坪組合長（左）

第22回 きたみらい酪農振興協議会
通常総代会開催

きたみらい酪農振興協議会は4月21日、当JA訓子府地区事務所で第22回通常総代会を開催し、代議員26人（内委任状6人）、来賓1人が出席しました。

開会挨拶で同協議会の中島英樹会長は「畜産資材等の高騰が続き先行きの見通せない状況の中、分娩時期のずれ等による生産量の伸び悩みもあったが、年度の後半には持ち直しJAきたみらいの生産量は84,697トとなった。消費の減退等厳しい環境が続く中で、引き続きPR活動等様々なことに取り組んでいきたい」と話しました。

議事では令和7年度事業計画及び収支予算案など議案3件が可決されました。



▲総代会の様子

うし好き集まれ！会員募集！

きたみらいジュニアホルスタインクラブ

きたみらいジュニアホルスタインクラブでは、酪農に興味のある小学1年生～高校3年生が集まり、毎年楽しい交流会や共進会への参加などの活動を行っています！

現在、置戸17名・訓子府6名・上常呂1名・相内2名・北見4名の合計30名（R7年3月31日時点の会員数）で活動しており、今年もたくさんの楽しい行事を企画しています！

興味のある方、加入希望の方は下記事務局までご連絡ください。多くの方の加入をお待ちしています！

- 主な活動内容
- ・各種共進会への参加
写真コンテストなど！
 - ・焼き肉交流会
 - ・合同交流会
管内のクラブと合同で交流会を開催！
内容は酪農に限らず様々！
 - ・乳製品の加工実習
アイスクリームやパン、バターなどなど



年会費 2,000円/人

事務局：JAきたみらい畜産相談G
富士咲希(090-2056-9375)
佐藤 峻(090-5392-6965)

教えて！
シニアのための
ヘルスリテラシー

JAからの お知らせ INFORMATION

そのドキドキ、心不全かも？

・ 自覚症状が少ない高齢者の心不全

心不全とは、心臓のポンプ機能が低下して、全身の臓器に十分な血液を送り出せなくなった状態です。

心臓の機能は加齢に伴い低下するため、高齢者ほど注意が必要です。症状としては、動悸（どうき）や息切れ、呼吸困難、体重の増加、むくみ、疲労感などが挙げられます。しかし高齢者では、はっきりした自覚がない場合も少なくありません。

・ 息切れや急な体力低下に注意

心不全の早期発見のポイントは、「これまで普通にできていた動作ができなくなった」「急に体力が落ちた」「急に体重が増えた」「動悸や息切れが増えた」などの症状です。こうした症状が現れたら我慢せずに、医療機関を受診しましょう。

日常生活では、かかりつけ医と相談して、塩分や水分の摂取に気を付けましょう。また、過度の飲酒や過食、長時間の入浴にも注意が必要です。そして、喫煙は控えましょう。

「年のせい」と思い込んで、そのままにいませんか？



自覚したとしても「年のせいだから」と我慢してしまう傾向があり、発見が遅れることもあります。

参考資料：東京都医師会ホームページ ヘルスリテラシーって何？ <https://www.tokyo.med.or.jp/healthliteracy>
イラスト：ゆきたけし

フレイルや介護予防について気になることや心配なことがございましたら、下記担当者までお気軽にご相談ください。
お問い合わせ：担い手グループ TEL:24-2145（榎本・辻本）

JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

最終回「JAグループの代表議員がなぜ必要なのか」について

JAグループの声を！
JAグループの農政運動の目的は、「農政（農業・農村・農協政策）」にJAグループの声を反映させて、生産現場の課題解決を図ることです。そのため、農政を決定する政府・与党の中に、農業・地域・JAグループへの理解者を増やすことが農政活動の強化につながります。

働きかけと支援を！
農業の実情を知る議員がいることによって、政府・与党内に農業現場の実情を伝えることが可能となります。そのため、JAグループの声を代弁し、政府・与党に積極的な働きかけを行う議員に対して、組織でまとも、活動を支え、連携することが、政策実現のカギとなります。

組織力の結集を！
JAグループの様々な事業に対し措置されてきた予算・税制等の政策支援は、これまでの農政運動を通じて確保してきたものです。これらの政策支援を維持・発展させるためには、JAグループが団結して農政運動を行うことが必要です。組合員や役職員一人一人の力は小さいですが、組織としてまとまることで“力”となります。

我々の代表を！
国会(政治)は数が力です。国を動かすには、国会に一人でも多くの農業やJAの理解者を増やすことが重要です。そのために、我々JAグループの代弁者として、先頭に立って多くの国会議員に働きかけ、農業やJAの理解者を増やし、まとめていくことができる議員、つまり、JAグループの代表議員が必要なのです。

農政活動の強化に向けて！

国民への食料の安定供給、環境との調和、組合員の所得増大、農業・農村の持続的発展等に向けた生産現場の課題解決のために、今こそ我々JAグループの組織力の発揮が必要なのです。



東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから



【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、全8回連載いたしました。

東野ひでき北海道後援会

白井慎吾職員、世界男子カーリング選手権に出場！



▲試合でストーンを投げる白井職員（撮影：竹田聡一郎）

JAきたみらい営農振興部担い手グループで働いている白井職員は、日々の業務の傍らカーリング選手として活動しています。3月29日から4月6日にカナダで開催された「世界男子カーリング選手権大会2025」に出場しました。結果としては5勝7敗の9位で大会を終えました。当JAではこれからも白井職員を応援していきます。

まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。
間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B

出題・イラスト：酒井栄子



4月号まちがいさがしの当選者

4月号のまちがいさがしの答えは「2、3、5、6、9、12」でした。正解者19名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。
※まちがいが6個ありましたので、そのうち5個当たっていれば正解といたします。

- ()内は地区名
- ・岡田 心寧さま(置戸)・浅川 友子さま(訓子府)
 - ・伊東 雄崇さま(置戸)・山本ゆかりさま(上常呂)
 - ・前田 藍子さま(訓子府)・山本 純子さま(上常呂)

以上の方々には、JAきたみらいの「玉ねぎ醤油」と「白花豆シーザードレッシング」をプレゼント致します。



応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。
抽選で6名の方に、JAきたみらいの「にんにく香のお肉のたれ」と「玉ねぎ黒酢入りドレッシング」をプレゼント致します。

4 年生になったので自転車通学出来るようになりました。車に気をつけて乗りたいと思います。楽しみです。(匿名希望さん)

自転車通学素敵ですね！ですが、車との事故はこちらが気を付けていても起こってしまう場合があります。ヘルメットを正しく着用する、自転車の点検を行うなど安全対策をしっかりと、楽しんでくださいね！

今 年は雪は少なかったです。春先の雨が多いですね。順調な一年であってほしいです。

(訓子府地区 笠野真太郎さん)

雪もすっかり解けて、肌寒いながらも春が来ましたね！雨も晴れもバランスのいい一年になることを祈っています！

読者の声

おひさまサラダをホームページで閲覧できます！

広報誌「おひさまサラダ」を当JAのホームページで紹介しています。右側にあるQRコードから閲覧できますので、ぜひご覧下さい。



JAからののお知らせ INFORMATION

第3回 理事会報告

4月18日、午後1時30分より第3回定例理事会が開かれ、報告事項14件、決議事項6件が協議され、原案通り承認されました。

【報告事項】

- ①令和7年度監事監査計画について
- ②内部監査(経営定期点検)報告について
- ③組織機構の変更について
- ④財務状況報告について
- ⑤令和6年度玉ねぎ選果・販売状況について
- ⑥令和6年度作付用原産種萌芽不良に係る補償金について
- ⑦玉葱指標配分に係る振興会協議経過について
- ⑧生乳生産状況及び個体取引価格状況について
- ⑨令和7年度用途別原料乳価格等について
- ⑩令和7年度燃料事業正組合員及び役職員向け利用促進奨励対策について
- ⑪令和7年度購買部連休対応について
- ⑫オホーツク農業協同組合長会新体制について
- ⑬理事に対するクミカン貸越極度額の設定に係る報告について
- ⑭組合員状況報告について

【決議事項】

- ①出資減口について
- ②規程類の改正について
- ③行政庁に対する業務報告書について
- ④固定資産の取得について
- ⑤役員退職慰労金引当金の取り崩し及び退職慰労金の支給について
- ⑥理事報酬の配分について

JAバンクからの大切なお知らせ

ATMなどのサービスを一時休止させていただきます。

いつもJAバンクをご利用いただきありがとうございます。
このたびJAバンクはお客様へのサービス利便性の向上を目的としたシステム更新に伴い、誠に勝手ながらATM・JAネットバンクなどのサービスを一時休止させていただきます。
ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



休止日 全てのサービスが休止 道内JAのATMとJAネットバンクサービスはご利用可能

2025年 4月	5.11 日 全取引休止 6:30-12:00	5.17 土 全取引休止 21:00-24:00	5.18 日 全取引休止 0:00-8:00	8.16 土 全取引休止 21:00-24:00	8.17 日 全取引休止 0:00-8:00
	9.14 日 全取引休止 終日	9.15 月・祝 全取引休止 0:00-12:00	9.27 土 一部取引休止 15:00-24:00	9.28 日 一部取引休止 0:00-12:00	

休止するサービス
JAバンクのATM
現金預金・ATM
JAネットバンクサービス
J-Debit

現金のお引き出しはお早めに。
お客様にはご不便をおかけし誠に申し訳ございませんが、あらかじめ現金をお引き出しいただくなどのご準備をお願い申し上げます。

詳しくはJA窓口へ
(JAお問い合わせ先)

[JAバンクのホームページ] <https://www.jabank.org>

EVERY エブリイ JA特別パッケージ



CARRY キャリイ JA特別パッケージ



JAきたみらい 農機自動車センター：訓子府町大町158番地
TEL：0157-47-4820 FAX：0157-47-3411

おひさまサラダ COOKING

気持ちがいい季節! ピクニックのお供にも レシピ提供 ●料理研究家 和田麻紀子



アスパラのうま味がぎゅっと詰まった

アスパラとささみの春巻き

材料(2人分)

アスパラガス 1 束
春巻きの皮 4 枚
鶏ささみ 4 本(200g程度)
酒 大さじ 1
A 塩 小さじ 1/2
こしょう 少々
揚げ油 適量

ポイント

アスパラガスはゆでると栄養が流れ出てしましますが、生のまま使うことで栄養を逃さず食べられます。

アレンジ 下ごしらえの少ない春巻きはとっても自由で楽しい!

作り方

- ① ささみは筋を取り、筋を断ち切る方向に1cm幅に切り、Aをもみ込んでおく。
アスパラガスは根元をピーラーでむいて半分の長さに切っておく。
- ② 春巻きの皮に①のアスパラガス1本分とささみをのせて巻き、水(材料外)を付けて留める。
- ③ 油は少し低い温度から入れてじっくり揚げる。こんがり色が付いたら取り出す。すぐに切らずに余熱で少し火を通す。

●チーズ、大葉、梅、明太子を加えて
●からしマヨネーズ、ケチャップやチリソースを付けて
●アスパラガスを千切りにしたキャベツに、ささみをエビに替えて

老若男女みんな大好き!

ジャガイモとクレソンのガレット

材料(2人分)

ジャガイモ 250g
塩 小さじ 1/2
クレソン 2 本
薄力粉 大さじ 2
こしょう 少々
油 大さじ 1

ポイント

でんぷんでガレットがつながるので、切ったジャガイモは水にさらさないこと。クレソンは火を入れると風味が穏やかになって食べやすいです。

作り方

アレンジ ●クレソンをお好みの香味野菜やハーブに替えてもおいしい。ディル、ローズマリー、パクチーなど

- ① ジャガイモは細い千切りにしてボウルに入れ、塩を加えてよく混ぜ2、3分置いておく。クレソンは葉を3cm、軸は斜めに1cm幅に切る。
- ② ジャガイモの水分が出てきたら、薄力粉、クレソン、こしょうを入れて混ぜ合わせる。
- ③ 油を熱したフライパンに②を大きめのスプーンですくって落として薄く広げ、くっつかないように並べて3分焼く。こんがり色が付いたらひっくり返して裏面も同様に焼く。



編集後記

- ・ だんだんと暖かくなり、日が昇るのも早くなってきましたね。冬の期間は寒さと外の暗さでなかなか早起きできませんでしたが、徐々に早起きの習慣に戻していきたいです。
- ・ 季節の変わり目で体調を崩しやすい時期です。体調、けがに気を付けて春作業を頑張ってください!

(加藤 拓海)

JAきたみらい概要

(令和7年4月13日現在)

- ・ 組合員数(正) 1,586人
- ・ 組合員数(准) 5,471人
- ・ 組合員戸数(正) 833戸
- ・ 貯金 116,376百万円
- ・ 貸出金 15,101万円
- ・ 出資金 5,041百万円